

第2学年 国語科学習指導案

児童 2年1組 31名

指導者 富田美奈子

- 1 単元名 本の世界を広げよう～がまくん・かえるくんをしょうかいしよう～
教材名 「お手紙」 アーノルド＝ローベル 作 三木 卓 訳
補助教材「ぼうし」 アーノルド＝ローベル 作 三木 卓 訳

2 単元について

(1) 児童の実態

児童は、2年生になって「ふきのとう」の単元で、想像したことを活かして、本文にせりふや様子を表す言葉を付け足しながら台本づくりを行い、動作を加えながら音読劇をする学習をしてきた。また、「スイミー」では、「読みの観点」に着目しながら読むことや並行読書を通して比べ読みをし、本の紹介をする言語活動を行ってきている。また、「黄色いバケツ」の学習では、登場人物の心情を想像し、主人公になったつもりで日記を書く活動を行った。これらの学習を通して、児童は、場面の様子や登場人物の心情を想像し、それを表現できるようになってきている。

児童は読書が好きで、図書室から進んで本を借りたり、教師や上級生の行う読み聞かせを楽しみにしたりしている。また、1年生のときから友だちに自分のおすすめの本を簡単に紹介する学習をしてきている。これらの読書活動を通して、読む目的を意識して本を読んだり、好きな本を紹介したりすることができるようになってきている。

この単元を通して、本や文章の内容を自分の読書体験と結び付けて想像を広げたり、内容に対して自分の思いや考えをまとめたりする力を培い、児童の読書生活をより豊かなものにしていきたい。

(2) 単元のあらまし

本単元では、中心教材「お手紙」の物語を読み取り、さらに同じシリーズの本の紹介をすることにより、よりいっそう読書の幅を広げることをねらいとしている。

教材は、アーノルド＝ローベルによって書かれた「がまくん・かえるくんシリーズ」の短編童話である。少しわがままながまくんとがまくんに優しい言葉をかけるかえるくんの関係が温かくユーモラスに描かれている。文章が簡潔で分かりやすく、会話文が多いことから人物の特徴や物語の展開をとらえやすい。挿絵も効果的に使われ、がまくんとかえるくんの心の動きも感じ取ることができる。このようなことから、低学年の児童が場面の様子や人物の心情に着目し、人物像を想像しながら読むことに適している。

中心教材「お手紙」は、一度もお手紙をもらったことのないがまくんと、友達の悲しみを自分の悲しみとして受け止め、お手紙を出すかえるくんと心の交流が描かれている。がまくんを思いお手紙を出すかえるくんの優しさや、かえるくんのお手紙の内容を聞いて幸せな気持ちになるがまくんの様子から、二人の友情の温かさを感じ取ることができる。

補助教材「ぼうし」は、「お手紙」と話の展開が似ている。冒頭にがまくんに起こる事件、展開では解決方法を考えるかえるくんの頑張り、そして結末では、事件が解決され、二人とも幸せな気持ちになっている。物語の構造や設定の共通点がとらえやすく、低学年の児童が比べ読みをするのに適している。

この教材を用いた比べ読みや他の物語を紹介し合う活動により、場面の様子をとらえ、想像を広げながら文章を読む力や内容に対して自分の思いや考えをまとめる力を育てることができる。

これらのことから本単元は、児童に物語の構成要素を理解させながら、想像を広げて読む楽しさを味わわせることができ、日常の読書生活に役立てていくことができると思われる。

(3) 指導に当たって

このような児童の実態や単元のあらましを踏まえ、本単元で児童に身に付けさせたい力を次のように考えた。

思考力	場面の様子、登場人物の行動などに着目し、他の作品と比べながら読んだり内容に対して自分の思いや考えをまとめたりする力
判断力	比べ読みをしたり、紹介したりするという読む目的を意識して、必要な文や言葉を選択したり、本や文章を選ぶことができる力
表現力	自分の思いや考えを入れながら、簡単な構成を考えて本の紹介カードに書いたり、発表したりする力

第1次では、今までの読書体験を基に、シリーズ本には、共通する物語の構造や設定があることに気付かせるとともに、ブックトークを通して「がまくん・かえるくんシリーズ」に興味・関心をもたせる。学習の見通しをもたせるために、中心教材で「読みの観点」に着目させ、物語の構造や設定を把握しながら読んだり、補助教材で比べ読みをして読みを深めたりすることを確認する。また並行読書を行い、自分の気に入った物語を選び、「がまくん・かえるくんのしょうかいカード」を作り、紹介し合うという単元のゴールを明確にする。

第2次では、中心教材「お手紙」を「読みの観点」に着目させながら、物語の構造や設定を把握させ、内容の大体を自力で読み取る力を高めたい。その後、人物の心情の変化や物語の展開を読み取らせていく学習を行う。まず、中心人物の変容とそのきっかけになった出来事をとらえさせ、物語を一文でまとめる言語活動を行う。次に、登場人物の行動や会話、特徴を表している文を書き抜き、整理してカードにまとめる言語活動を通して、人物像をとらえさせていく。さらに、「お手紙」と補助教材「ぼうし」の比べ読みを行い、シリーズ本に共通する登場人物の人物像や人物同士の関係や物語の展開の工夫を読み深めさせる。その際、既習の内容や本文に書かれていることを根拠とし、共通点を探させていくことにより、身に付けた物語の読み方を実感していくとともに、物語の面白さを感じ、他のシリーズも読んでみたいという意欲につなげていきたい。

第3次では、がまくん・かえるくんシリーズの他の作品を「読みの観点」を活かして読み、自分が気に入った話のがまくん・かえるくんを紹介するカードを作成する言語活動を行う。紹介カードに書く内容は、①題名②物語の内容を表す一文③登場人物

の特徴④登場人物の名ぜりふ（心に残った会話文）⑤大事な行動（心に残った行動）⑥登場人物のすてきなところ（自分の考えや思いを入れた人物の魅力）が挙げられる。この活動を通して、文章中の人物の行動や会話から人物の魅力について理由を挙げて書き、自分の考えや思いを入れてまとめる力を高めたい。紹介カードを書いた後は互いに読み合い、感想を「手紙」にして交換し、交流の場を設定する。

この単元を通して、児童自身が身に付けた読む力を確かめながら、読書生活に生かしていこうとする態度を培っていききたい。

3 単元の見目

関心・意欲・態度

- ・ 物語の特徴に気付いたり、面白さを味わったりしながら物語を読もうとする。

読むこと

- ・ 場面の様子について人物の行動や心情の変化を中心に想像を広げながら読んだり、物語の展開を読み取ったりすることができる。 (C読(1)ウ)
- ・ 本の内容に対して、自分の思いや考えをまとめたり、発表したりすることができる。 (C読(1)オ)

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ・ 言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付くことができる。 ((1)イ(ウ))

4 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
物語の特徴に気付いたり、面白さを味わったりしながら読み、好きなところを紹介しようとしている。	場面の様子について、人物の行動や心情の変化を想像しながら読んだり、物語の構造や設定を読み取ったりしている。 登場人物の好きなところや話の面白さについて自分の思いや考えをまとめたり、発表したりしている。	言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付きながら読んでいる。

5 単元の指導計画（指導時数 14 時間）

時数	学習内容	活用する知識・技能	活用を図る言語活動	評価規準（評価方法）
第一次 1	○ 「がまくん・かえるくんのしょうかいカード」を作る計画を立てる。 ・今まで読んできたシリーズ本の読書体験を思い出し作者・人物・話の展開などを紹介する。 ・ブックトークを開き、シリーズ20編の中から「クッキー」「そりすべり」の読み聞かせを聞く。 ・並行読書について知る。	・本の紹介 ・作者 ・感想	・シリーズ作品を読んだ体験を発表する。 ・お話の面白さや心に残ったことを発表する。	（関）興味をもってブックトークや読み聞かせを聞いている。（観察）
2 ・ 3	・中心教材「お手紙」を全文音読し、初発の感想を交流し合う。 ・「がまくん・かえるくんのしょうかいカード」を作ることを目的に学習を進めることを確認し、学習計画を立てる。 ・新出漢字・語句の学習をする。	・題名読み ・挿絵 ・感想	・中心教材「お手紙」を読み、お話の面白さや心に残ったことを話し合う。	（読）登場人物や場面の様子、物語の面白さについて自分なりの感想をもっている。（ノート・発言）
第二次 4	○ 中心教材「お手紙」を読み、物語の構造や設定を読み取る。 ・読みの観点を基に、内容の大体を読み取る。 ＜読みの観点＞ ① 登場人物・中心人物 ② 時・場所 ③ 事件 ④ 山場	・登場人物 ・中心人物 ・時、場所 ・事件 ・山場	・読みの観点を基に読み取ったことをノートにまとめる。	（読）読みの観点を基に、物語の構造や設定を読み取っている。（ノート）
5	・物語の場面を分ける。 ＜場面分け＞ はじめ→事件 中（出来事）→解決方法 終わり（結末）→解決	・場面分け ・時、場所 ・事件 ・出来事 ・結末	・物語を「はじめ・中・おわり」に分け、構成を図に書く。	（読）理由を考えながら、場面分けをしている。（発表・ノート）
6	・中心人物がまくんの気持ちの変容を読み取る。	・場面分け ・事件 ・出来事 ・結末 ・挿絵 ・会話文 ・行動 ・心情	・中心人物の心の変容を一文でまとめ、カードに書く	（読）出来事や会話文などに着目しながら、中心人物の心の変容を読み取っている。（発表・カード）

7 ・ 8	<ul style="list-style-type: none"> ・がまくんとかえるくんの 特徴や二人の関係を 読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動 ・心情 ・会話文 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の会話や行 動、特徴を整理し、 どんな人物かをとら えカードに書く。 	<p>(読) 登場人物 の会話や行動 に着目しながら、 人物像や関係 を考えている。 (カード)</p>
9 (本 時)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中心教材「お手紙」と 補助教材「ぼうし」を比 べて読み、共通してい る物語の構造や人物設 定を読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物 ・事件 ・心情 ・行動 ・変容 ・結末 ・場面分け 	<ul style="list-style-type: none"> ・中心教材と同じシリ ーズの作品を比べ読 みし、共通点を見付 ける。 	<p>(読) 読みの観 点に着目しながら、 共通している物語 の構造や人物設 定を見付けている。 (発表・ ワークシート)</p>
第 三 次 10 ・ 11	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「がまくん・かえるく んのしょうかいカード」 を作成し、互いに紹介し 合う。 ・並行読書をしていた中か ら、紹介したい作品を選 びカード作りに取り組む <p><カードの内容></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 題名 ② 物語の内容を表す一文 ③ 登場人物の特徴 ④ 登場人物の名ぜりふ(心 に残った会話文) ⑤ 大事な行動(心に残った 行動) ⑥ 登場人物のすてきなど ころ(自分の思いや考え を入れた人物の魅力) 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物 ・紹介文 ・題名 ・変容 ・会話 ・心情 ・行動 ・感想 	<ul style="list-style-type: none"> ・並行読書していた中 から、紹介したい作 品を選ぶ。 ・読み取った登場人物 の会話や行動、特徴 を整理し、紹介カー ドを書く。 	<p>(関) 自分が紹 介したい作品 を楽しんで選 んでいる。 (観察)</p> <p>(読) 登場人物 の会話や行動、 特徴に着目し、 自分の思いや 考えを入れな がら紹介カー ドを書いている。 (カード)</p>
12 ・ 13	<ul style="list-style-type: none"> ・「がまくん・かえるくんの しょうかいカード」を読 み合い、友達のカードを 参考にして読書をする。 ・読んだ本の感想を手紙に 書く。 <p><感想の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・おもしろかったところ ・気に入ったところ ・すてきだなと思うところ 	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介文 ・手紙 (感想) 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達のカードを参考 に作品を読み、感想 を手紙にして書く。 	<p>(関) 友達のカ ードを参考に 本を選んで楽 しんで読もう とする。 (観察)</p> <p>(読) 自分の読 書体験を基に、 感想を書いて いる。(手紙)</p>
14	<ul style="list-style-type: none"> ・読んだ本の感想を書いた 手紙を渡し、交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手紙 ・感想交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・互いに手紙を読み合 い、感想を交流する。 	<p>(読) 手紙を読 んだ感想を話 している。 (観察)</p>

6 本時の指導

(1) 目標

二つの作品の共通点を見付けることを通して、シリーズの本に共通する登場人物の特徴や人物同士の関係、物語の構造をとらえることができる。

(2) 活用を図る言語活動について

中心教材と同じシリーズの作品を比べ読みし、共通点を見付ける言語活動を行う。その際、読みの観点に着目させ、作品の設定や構造を中心に共通点を見付けさせることを通して、シリーズ全体に共通する人物像や物語の構造をとらえさせる。また既習の内容や本文に書かれていることを根拠とし、共通点を話し合わせたい。これらのことにより思考力・判断力を高めていきたい。

(3) 展開

段階	学 習 活 動	教師の支援（◎評価）
つかむ 8分	1 前時の学習内容を想起する。 2 「ぼうし」の読み聞かせを聞く。 3 本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;">「お手紙」と「ぼうし」のにているところを見つけよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> 前時までに学習した「お手紙」の構造や人物の特徴・変容などを想起する。 物語の構造が分かりやすいように「はじめ・中・おわり」に分けて読み聞かせをする。
見通す 2分	4 学習の見通しをもつ。 <ul style="list-style-type: none"> 「お手紙」と「ぼうし」の似ているところを自分で見つけた後、全体で話し合うことを確かめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習のゴールが、比べ読みをして分かったことや気付いたことを書きまとめることであることを示し、見通しをもたせる。
深める 25分	5 学習課題の解決を図る。 (1) 「お手紙」と「ぼうし」の似ている点を見付け、サイドラインを引いたり、書きこみをしたりする。	<p>【知識・技能の活用を図る言語活動】</p> <p>○ 読みの観点をういながら、同じシリーズの作品を比べ読みし、共通点を見付ける言語活動を行う。</p> <p>【活用する知識・技能】</p> <p>登場人物 事件 心情 行動 変容 結末 場面分け</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時までに読み取ったことと比較しながら、紙板書で物語の読みの観点を示し、共通点を見付けていくことを確かめる。 共通点を見付けることができない児童には「読みの観点」に基づいて考えることができるようなヒントカードを

<p>深 め る</p> <p>25 分</p>	<p>(2) 全体で共通点を話し合い、考えを共有する。</p> <p>＜人物の特徴・関係＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ がまくんとかえるくんが登場人物で中心人物はがまくん。 ・ がまくんは、悲しい気持ちになっている。 ・ かえるくんは優しい。 ・ 「お手紙」のときのようにがまくんのためにかえるくんが何かしてあげようとしている。 ・ 二人はいい友達（親友） <p>＜物語の構造＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どちらも「はじめ」が悲しくて、「終わり」がうれしい気持ち。 ・ 「はじめ」で事件のきっかけになったものがでてくる。（お手紙、ぼうし） ・ 「なか」でかえるくんががまくんのために事件を解決する。 ・ がまくんの気持ちが大きく変わったところがある。 	<p>用意する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の読みとの相違点を確認しながら、読みを再検討させる。 ・ 児童の発言を＜人物の特徴・関係＞＜物語の構造＞を中心に整理しながら板書していく。 ・ ＜書き方＞について児童から出た場合には、認める程度にして、本時ではあまり深く取り扱わない。 ・ 中心教材「お手紙」の叙述や読み取った内容を想起させながら、なぜ似ていると思ったのか根拠を明らかにして発表させる。 <p>◎ 読みの観点に着目しながら、共通している人物設定や物語の構造を見付け出している。（発表・ワークシート）</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【目指す子どもの姿】</p> <p>必要な文や言葉を選択し、作品の共通点を見付け、物語の構造や人物設定を読み取っている。</p> <p style="text-align: right;">（思考力・判断力）</p> </div>
<p>ま と め る</p> <p>8 分</p>	<p>6 比べ読みをして分かったこと・気付いたことをまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「お手紙」も「ぼうし」もがまくんのためにかえるくんががんばっていることに気づきました。わたしは、いい友だちだなと思いました。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2～3名の児童の発表を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話し合いを通して作品に共通する登場人物の特徴・関係、人物像・物語の展開などについて分かったことや気付いたことをノートに書かせる。 ・ 書き方の分からない児童は、板書を基に書くよう指示を出す。
<p>振 り 返 る</p> <p>2 分</p>	<p>7 本時の学習を振り返る。</p> <p>8 次時の学習を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 読み取ったことを活かし、他の作品を読み「がまくん・かえるくんのしょうかいカード」を作成することを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 比べ読みをして、共通点を見付け出すことができたかどうかを振り返らせる。 ・ 今までの学習を活かしてカードを作成するとともに、登場人物のすてきなところを入れて紹介することを知らせる。

(4) 具体の評価規準

観点	A 十分満足	B おおむね満足	B に至らせるための手立て
読むこと	作品に共通する登場人物の特徴や人物同士の関係、物語の構造をとらえ、既習の内容や本文を基に根拠を明らかにしながらワークシートに書きまとめたり、発言したりしている。	作品に共通する登場人物の特徴や人物同士の関係、物語の構造をとらえ、ワークシートに書きまとめたり、発言したりしている。	共通点を見付けることができない児童には「読みの観点」に基づいて考えることができるようなワークシートを用意する。

(5) 板書計画

「お手紙」「ぼうし」

「お手紙」 きっかけ 「ぼうし」

はじめ・・・じけん
手紙をもらったこと ぼうしが頭に大きすぎて
がない ふしあわせ かなしい

なか・・・かいけつのほうほう↓かえるくん
がまくん かえるくん
かなしい やさしい

手紙を書く こっそり 水をかけて小さくする
手紙を書いてもらったことを知る ぼうしが入る
二人はいい友達

親友
なかよし
きみがくれたんだもの

「おわり」・・・かいけつ
手紙をもらって（まっつて） ぼうしが頭にぴったりで
しあわせ 楽しい

分かったこと、気づいたことを書きまとめる。

まとめ
「お手紙」も「ぼうしも」
・・・ということがわかりました。
・・・ということに気づきました。
わたしは
と思いました

(6) 資料

<本単元で使用したアーノルド＝ローベル作品のブックリスト>

- 1 「ふたりはともだち」 訳 三木 卓 文化局出版局
はるがきた おはなし なくしたボタン すいえい おてがみ
- 2 「ふたりはいっしょ」 訳 三木 卓 文化局出版局
よていひょう はやくめをだせ クッキー こわくないやい がまくんのゆめ
- 3 「ふたりはいつも」 訳 三木 卓 文化局出版局
そりすべり そののかどまで アイスクリーム おちば クリスマス・イブ
- 4 「ふたりはきょうも」 訳 三木 卓 文化局出版局
あしたするよ たこ がたがた ぼうし ひとりきり

